

(A) 旧年度の事業報告

■社会デザイン調査研究会

設置期間	2008年4月～2010年3月	
幹事学会	計測自動制御学会・ヒューマンインタフェース学会	
主査	古田一雄	(東京大学、計測自動制御学会)
副主査	寺野隆雄	(東京工業大学、経営情報学会)
幹事	下村芳樹	(首都大学東京、精密工学会)
幹事	菅野太郎	(東京大学、ヒューマンインタフェース学会)
委員	内田祥士	(東洋大学)
	大澤幸生	(東京大学)
	岡本浩一	(東洋英和女学院大学)
	上 昌広	(東京大学)
	熊坂賢次	(慶応大学)
	西條辰義	(大阪大学)
	塩瀬隆之	(京都大学)
	高玉圭樹	(電気通信大学)
	高橋武秀	(自動車部品工業会)
	舘山武史	(首都大学東京)
	西尾チヅル	(筑波大学)
	西田豊明	(京都大学)
	日高一義	(日本IBM)
	矢田勝俊	(関西大学)

合計3回の研究会を開催し、社会デザインの課題、技術的方法論、成功事例などに関して講演に基づいて議論することにより、社会デザインの現状の把握を行った。

第1回調査研究会(4月25日):主査の趣旨説明に続いて、研究会の方向性、社会デザインの定義など、社会デザインに関連する主要概念、デザイン対象や特徴、方法論について議論した。また、自動車産業における構造変遷について、機能要求の多様化、細分化や知識の沈澱・集積プロセス等の観点から現場の知見に基づく講演を聴き、製造業における製品開発と組織の関わり、産学連家のありかたなどについて議論を深めた。

第2回調査研究会(7月30日):「医療ガバナンスとメディアチェーン」をテーマとして、携帯・メール・インターネットが医療ガバナンスに与えている影響についての報告を聴き、医療制度設計における問題点と解決策について議論を行った。つぎに、組織的意思決定を行う際の手順や組織風土と組織的不祥事との関連性、および不祥事の防止方策に関する研究発表を聴き、質の高い組織的意思決定を実現するための仕組みについて議論した。

第3回調査研究会(12月1日):建築家と町工場との協力による価値創造の成功事例が紹介され、出会いによる価値共創の観点から議論を行った。また、社会シミュレーション研究のレビューを行うとともに、シミュレーションモデルをミクロ、マクロの双方向から検証することの必要性について議論した。

(B) 新年度の事業計画

■社会デザイン調査研究会

2008年度に引き続き、3～4回程度の調査研究会を実施する。昨年度にとりあげられなかった、経済、経営、サービス等の分野における社会デザインの事例と方法論をとりあげる。その結果を踏まえて、社会デザインの主要概念を整理することを試みる。

また、第3回横幹コンファレンスにおいて「社会デザイン」をテーマとしたセッションを企画する。オガナイザーは古田、大澤の予定。